




※  は市旗です。市全体の話題の場合に表記しています。



### 春の訪れを告げる 「くしら二十三や市」

1月21日・22日の2日間、串良総合支所周辺の道路900mで、約300店舗による大隅一の大露天市「くしら二十三や市」が開催されました。

二十三や市は、江戸時代後期に正月用品の物々交換の場として旧暦の12月23日に始まったとされ、戦後一時途絶えていたのが、昭和27年に復活。当日は、植木や花木、刃物、陶器、衣類などが販売され、朝早くから品定めをする多くの買い物客でにぎわいました。また、剣道大会や消防音楽隊パレードのほか、保育園児による竹太鼓演奏やカンパチ解体ショーなども行われ、伝統ある行事を盛り上げました。



### 早春の風物詩 「名物あいら木市祭」

1月14日・15日の2日間、吾平町麓の吾平町商店街約300mを歩行者天国にして「名物あいら木市祭」が開催されました。

吾平地区の早春の風物詩として、また、県内で一番早い木市として有名なあいら木市祭は、商店街の活性化と地域振興を目的に毎年行われているもの。通りには、地元商店街や市内外から約100店舗が出店し、植木や苗木、刃物類、地元加工グループの手作り加工品などが販売されたほか、ひよっこ踊り、歌謡ショー、お楽しみ抽選会なども行われ、市内外から訪れた多くの買い物客でにぎわいました。



### 農商工連携「講演会」と「異業種交流会」 ～地域・互いの強みを活用して新たな事業展開へ～

1月20日、ホテルさつき苑で農商工連携「講演会」及び「異業種交流会」が行われました。

この会は、農林漁業者と商工業者等が互いの強みを持ち寄り、連携による新たな事業展開を創出する機会をつくろうと開催されたもので、市内外から220人が参加。講演会では、株式会社ブランド総合研究所代表取締役社長の田中章雄氏による講演が行われました。

また、異業種交流会では、地域資源を活用した市内企業の取組事例発表や農産物の産地化に向けた本市の取組が紹介されたほか、新たな連携の可能性などについて意見交換が行われ、異業種間で交流を深めました。



### 初せりに、4つ子の子牛出場

1月18日から20日まで、肝属中央家畜市場で子牛の初せりが行われ、生産者によって大事に育てあげられた1,264頭の子牛がせりにかけられました。

その中で、4つ子の子牛が出場しました。生産者は吾平町下名の豊重和男さん。「9か月間、せりに出せるまでに育てられたことにほっとしている。できるなら4頭すべて同じ所へ」と話していた豊重さん。その思いが叶い、南さつま市の小田畜産が4頭すべてをせり落としました。落札した小田健一会長は「自分も4人兄弟なのでできるだけ一緒に成長してほしい。出荷まで立派に育てたい」と話してくれました。